

赤十字いわて

No.66
2025
冬季・春季号

赤十字は、 動いてる!



TEAM
SAVE365 一緒に、救える。

日本赤十字社の活動は、皆様の寄付によって支えられています。

特集1

地域で活躍する赤十字

特集2

日本海溝・千島海溝周辺
海溝型地震に備える



日本赤十字社 岩手県支部
Japanese Red Cross Society



日本赤十字社は2027年に
150周年を迎えます。

日赤のボランティアに参加してみませんか？

✦ 赤十字ボランティア(奉仕団) 活動の魅力 ✦

① 研修で基礎から学ぶことができ、初めてでも安心

② 東北各県、そして全国に仲間がいます！

イベントや研修への参加を通じて、ボランティア活動に役立つ知識が学べるとともに、同じ思いをもった方々と一緒に活動することができます。

今回は、赤十字ボランティア(奉仕団)の研修の一部をご紹介します。

赤十字奉仕団とは

赤十字の「苦しんでいる人を救いたい」という思いに共感する方が集まって結成されたボランティア組織です。



リーダーシップ研修 (秋田県主催)



10月21日から22日にかけて、秋田県(秋田県支部主催)で開催されたリーダーシップ研修に、岩手県から奉仕団員6名が参加しました。

1日目は各県(青森・秋田・岩手)の活動発表を行い、2日目は地域包括ケアや、防災・減災についてグループディスカッションを行いました。

県をこえた絆が深まったとともに、今後の活動に対するヒントを持ち帰る充実した会となりました。

赤十字奉仕団員の 集い



はじめまして



10月29日に盛岡市で赤十字奉仕団員の集いを開催し、県内各地の奉仕団から計29名が参加しました。

初めて顔を合わせる方も多くなか、活発な意見交換を行いました。

今回の集いをきっかけに、奉仕団同士の連携をさらに強化していきます！

青年赤十字奉仕団 防災キャンプ



11月1日から2日の1泊2日で開催。北海道・東北から集まった青年赤十字奉仕団員(学生・社会人からなる奉仕団)が、自分たちの力で、避難所設営訓練や炊き出しを行いました。

寒い中、岩手県支部庁舎内での宿泊となりましたが、実災害をイメージしながら、奉仕団員として何ができるのか、改めて考える機会となりました。

ひつま
おいしかったよ



～防災キャンプ参加者からの感想～

避難所用テントと段ボールベッドで一晩過ごしたことで、避難生活に何があれば便利なのか考える機会となりました。少しでも多くの人が、過ごしやすと感じる避難所環境を整えるために、今回学んだことを周りの人に広めたいと感じました。



ご紹介した以外にも、地域、個人で様々な活動を行っております。
活動に興味のある方は、ぜひ日本赤十字社岩手県支部までお問い合わせください。

地域で活躍する赤十字

目赤すこやかサロンで地域包括ケアを支援

日本赤十字社岩手県支部と盛岡赤十字病院は、高齢者等の健康の増進と地域住民同士のコミュニティの活性化を図ること（地域包括ケアシステムの構築を支援）を目的として、宮古市及び陸前高田市の2市とそれぞれ協定を結び、災害公営住宅等において事業を展開しました。

事業予定期間の2年間（2023年秋～2025年秋）を終えたことから、その活動内容をお知らせします。

陸前高田市：対象者 市営中田団地入居者

開催日：偶数月 第3火曜日 10：00～（1時間程度）
協 力：陸前高田市地域包括支援センター、
陸前高田市赤十字奉仕団、大船渡市赤十字奉仕団、
明治安田生命相互保険会社



陸前高田市
地域包括支援センター
村上有紗 保健師

多岐にわたるテーマで、2年間実施してくださり、参加者のみなさまは毎回大変楽しみにしておりました。

すこやかサロンは、毎回の活動内容自体が参加者の健康維持増進につながっているだけではなく、集まる大切さを住民のみならず我々に感じさせてくれる機会でした。



参加者の声

「サロンに参加してからは食べ物や運動に気を付けるようになり、毎日続けております。」
「皆さんとお会いするのが楽しみでした。」
「以前よりも野菜を取り入れる料理が増えました。サロンを通して知り合いが増えてきました。」
「団地の仲間と共に語り合い、認知症予防を考え、日赤の皆さんと知り合い、素晴らしいです。共に語り合うことが一番大切ですね。」

今後は陸前高田市赤十字奉仕団が様々な自治会でサロンを開催していく予定です。

宮古市：対象者 県営災害公営住宅八木沢第2アパート入居者と地域住民

開催日：奇数月 第4金曜日 13：30～（2時間程度）
協 力：宮古市社会福祉協議会、宮古市赤十字奉仕団、
明治安田生命相互保険会社



宮古市
社会福祉協議会
赤沼 恵 相談員

2年間にわたり、すこやかサロンに参加させていただきました。

毎回、勉強になる内容や、楽しく体を動かすなど住民の皆さんもサロンを楽しみにしていました。これがきっかけで、休止していた地域の交流も会の名前を変えて活動を再開するなど、サロンの効果が表れたと嬉しく思います。



参加者の声

「いろいろな健康に関するお話やビデオを視聴し、より健康や運動に関心を持つようになりました。」
「いつも優しい人たちが来てくれて毎回楽しかったです。」
「いろいろなことが出来て良かった。楽しいです。」
「緑黄色野菜目標の350gは摂取できていませんが、これからも頑張って摂りたいと思います。」

サロンで集まるようになってから、地元の女性たちで会を結成し、定期的集まりを開くようになりました。

青少年赤十字(JRC) 高校生の1年

青少年赤十字 (Junior Red Cross、以下 JRC) は、幼児から高校生までの幅広い世代が、主に学校や園単位で加盟し、ボランティア等様々な活動に取り組んでいます。目指すは「世界の平和と福祉に貢献する人材の育成」です。今回は活動の一年の流れをご紹介します。

4月～5月 新規メンバー募集、JRC 加盟登録式、年間計画策定、 高文連[※]登録

※高文連：正式名称は「岩手県高等学校文化連盟」。昭和56年に発足し、既に40年以上の歴史があります。JRCが所属する国際理解専門部は昭和62年に設立され、現在県内13校が加盟しています。



非常食作り

6月～7月 赤十字インターンシップ

進路を検討する際の一助として、赤十字の業務（非常食作り、避難所設営、救急法講習など）を体験します。

この体験に刺激を受け、「人を助ける仕事がしたい」と進路変更した生徒さんも複数います。



登録式

7月 高文連 JRC 委員会高校生大会

県 JRC 委員会の活動計画や組織作りなどを行い、同時に各校の情報交換や親睦を図ります。赤十字に関する学びの時間も用意されており、そのテーマは「SDGs^{*}」「防災」など多岐にわたっています。

※SDGs：「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略で、2030年までに持続可能でより良い世界を目指すための国際的な目標です。



募金ポスターのPRタイム



救急法を体験

7月 JRC リーダーシップトレーニングセンター

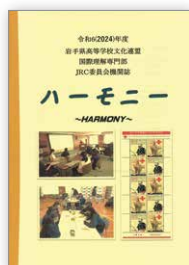
各校のリーダー候補となる小中高生が、寝食を共にしながら切磋琢磨し合う宿泊型研修です。参加総数は100名を超えることもあり、様々なプログラムを経験する中で、お互いの良さや違いを認め合いながら、リーダーとしての力を伸ばしていきます。



手話を披露

10月 高文連 JRC 委員会活動発表会

1年の振り返りを過ぎた時期に、各校で取り組んだ前期の活動を報告し合います。それぞれの学校の伝統や特色が表れ、多彩な発表会となっています。



1月 機関誌「ハーモニー」発行

生徒役員がWEB会議等で話し合い、編集作業を行います。本誌は毎年1号ずつ発行されており、会長の挨拶文に始まり、各校の活動報告や写真などで構成されています。

3月 年間活動反省、次年度計画案の立案



**「気づき、考え、実行する」JRCの
態度目標が、災害時のボランティア
活動につながりました！！**

令和7年大船渡市林野火災の際に、現地の高校生が自発的にボランティア活動に従事し、避難所で使用する救援物資の配送等に協力しました。



日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震の発生確率が引き上げられました



政府の地震調査委員会は、日本海溝沿いの青森県東方沖および岩手県沖北部のM7.9程度の地震の30年以内発生確率を「10～30%」から「20～40%」に引き上げました。日本海溝型地震では、岩手県において、2011年東日本大震災と同等、またはそれ以上の最大震度が想定されています。(岩手県地震・津波被害想定調査報告書より)

日本赤十字社は、災害対策基本法に基づく「指定公共機関」として、災害対応への協力義務があります。岩手県支部でも、今後発生し得るあらゆる災害に対応できるよう、救援物資の搬送はもちろん、救護班の出動に備え、災害救護の知識や技術の習得をはじめ、実災害を想定した演習を平時から実施しています。

県立宮古病院の災害対策本部運営



9/6 大規模地震時医療活動訓練
(内閣府主催 岩手県)

避難所避難者への聞き取り



日本赤十字社第1ブロック(北海道・東北)支部合同災害救護訓練(秋田県)

災害救護情報のまとめ



10/10-11

大船渡市林野火災の避難所を疑似体験

県内各地から、令和7年2月26日に発生した大船渡市林野火災での赤十字の災害対応についての講義や、実際に避難所で使用したテントやダンボールベッドの設置体験の依頼が増えております。災害用の備蓄物資は普段使い慣れておらず、適切に使用できないと更なる健康被害を招く恐れがあります。

地域の防災力向上に向けて、過去の災害から学び、体験してみませんか？

赤十字防災セミナー メニュー例

- ◎ 講義(災害への備え) …… 30分～
- ◎ 避難所設営体験 …… 45分～
(テント、ダンボールベッド等)
- ◎ ひなんじょたいけん …… 60分～
(避難所運営カードゲーム)
- ◎ 大雨・台風の避難スイッチ …… 60分～

ご都合に応じて対応いたしますので、お気軽にご相談ください。



岩手県赤十字有功会の活動



赤十字有功会は、日本赤十字社の活動（活動資金、献血、奉仕等）に貢献され、当社表彰規定に基づく有功章を受章された方々で結成された団体であり、当社の強力な応援団として、各都道府県に組織されています。赤十字の各種事業を支援しながら、人道・博愛・奉仕の赤十字精神の普及と推進にあたり、会員相互の親睦を図ることを目的の一つにおいて活動しています。

岩手県赤十字有功会は、有功章受章者のほか、一定の条件を満たした未受章者の方も加入しており、令和7年10月現在、102名の会員が在籍しています。

10月21日（火）には、会員と今年度の有功章受章者、そして当社職員等の総勢50名が参加して、サンセール盛岡において「令和7年度岩手県赤十字有功会の集い」を開催しました。会の席上、活動資金への協力など赤十字事業の推進に多大な貢献をいただいた個人・法人13名（社）の皆様、に、達増拓也日赤岩手県支部長（岩手県知事）から賞状や盾などが贈呈されました。



また、その後の講演会では、日本赤十字社広報室大阪・関西万博推進室齊藤主査から「大阪・関西万博 国際赤十字・赤新月運動館～赤十字の「つよさ」と「やさしさ」に支えられた半年間～」と題した講演を行い、参加者からは、「とても心に響いた」「改めて赤十字の思いに共感した」「今回の集いに参加して良かった」などたいへん好評でした。



岩手県赤十字有功会では、会員を募集しております。お問い合わせは、お気軽に組織振興課まで

令和7年大船渡市赤崎町林野火災義援金にご協力ありがとうございました。

日赤受付金額総額

（2025年6月30日受付終了）

7億179万8,432円

うち岩手県支部受付分 6,695万2,559円



盛岡シティプラス・南昌みらい高等学校吹奏楽部より義援金贈呈

高額寄付者のご紹介

7月～10月に岩手県支部へ10万円以上のご寄付をいただき、掲載のご了承をいただいた個人様・法人様のお名前を紹介しています。（順不同・敬称略）

- 法人**
- ・(株)サンギフト（奥州市）
 - ・(有)佐藤電設（一関市）
 - ・H2(有)（盛岡市）
 - ・(株)EYS（奥州市）
 - ・坂の上野田村太志クリニック（北上市）
 - ・東京エレクトロンテクノロジーソリューションズ株式会社東北事業所（奥州市）
 - ・(有)プレゼンハウス（盛岡市）
 - ・(株)ワールド設備機器（奥州市）
 - ・(株)本宮運輸（金ケ崎町）
 - ・みずかわ耳鼻咽喉科医院（北上市）
 - ・(有)宝海沼ファーム（北上市）
 - ・(株)岩手防火管理サービス（花巻市）

寄付金付き自動販売機設置企業のご紹介

新たに設置いただいた企業様をご紹介します。（敬称略）
県内に計75台設置されています。

しんたろうクリニック（盛岡市）



日本赤十字社 岩手県支部
Japanese Red Cross Society
〒020-0831 盛岡市三本柳6-1-10
TEL 019-638-3610 FAX 019-638-3619
<https://www.jrc.or.jp/chapter/iwate/>



日赤岩手県支部の最新の活動をSNSでチェック!!